

令和初めての年末です。気ぜわしい中に、うきうきした感じをお持ちの方も多い季節かと思えます。本日も熊本労災病院のHPを訪れていただき、ありがとうございます。

今年を振り返ると、病院機能評価の受審がもっとも大きなイベントでした。周到的準備のうえ、8月5-6日の二日間、評価調査者を迎えて病院全体で対応し、めでたく更新が認可されこのたび証書も受領しました。受審自体が遠い過去の様にも感じますが、職員全員が緊張と実動の負担に晒されて厳しい時を過ごしたのも事実です。ただ、形式的に「合格」、というのではむなしすぎます。実際に、医療安全を初めとして、現代の急性期基幹病院がどうあるべきか、の指標ひとつひとつに対して、準備の過程でそれが満たされる様に努め、結果として標準的医療の実践病院として認められたということです。試験が終わったらすっとみんな頭から消える、ということはみなさん経験があることかと思いますが、病院としては、これを財産として、次の更新（5年後）まで守り育てたいと思います。

ちょうど1年前に電子カルテが更新され、外来の呼び出しシステムの変更など、患者さんに直接関係した部分も変わりました。あつという間の1年でしたが、もう慣れられたでしょうか。この電子カルテは、「買い取り」ではなく、「リース」なのですが、その費用はかなりのもので、次の更新まで負担が続きます。私も電子カルテに触れる様になって10年が経ちますが、当初は、私も含め、「書く方が早い（汚い字をさておき！?）」、「患者さんを診なくなる」、「業務がむしろ増えた」、という不平不満が渦まいていたことを思い出します。今や、電子カルテはどこでも当たり前になり、記録の質の向上、診療の利便性、情報共有と記録における有効性、は確立されてきたといってもいいでしょう。ただ、まだ、「時間の浪費」、という不満はずっと持続しています。今は、一人1ファイルのカルテに、医師看護師だけでなく多くの職種が記録を残し、それを随時見ることができる利点はきわめて大きいものですが、紙に書いていた詳細の記録のままに電子カルテに入力するのは確かに時間がかかり、医師や看護師さん、リハビリの技師さんや薬剤師さんなど、多くの職種の業務時間を圧迫しているのは事実だと思います。ではどうするか。コピーペーストや、予めフォーマットを作成しておく、などは電子カルテの利点で有り、これを利用して省力化を図ることは今後急いで行うべきことだと思います。クリニカルパス、という言葉聞いたことがあるかと思いますが、予め、定型的な検査や治療に関して一定の計画を作っておき、医療者だけではなく患者さんとも共有して診療を進めようとするものです。当院はこのパスの利用率が低かったのですが、今年になり、機能評価も追い風に、だいぶ浸透しつつあります。このようなツールの利用も、各職種が本来やるべきこと、やってきたことに時間を割き、パソコン仕事を減らす助けにもなるかと思っています。上記の様に、とても費用がかかるツールであり、できるだけ有効に使わないと「損」なのです。

今年の11月までの平均病床利用率は約90%、前年の86%より4ポイントほど増えました。職員数はあまり変わらず、とても忙しくきつい1年であったと思っています。しかし、それが患者さんへの対応や医療の質に影響しては本末転倒です。職員数はなかなか増やすことができない現状があり、適切な仕事の分担と見直しによって、各職種がその職種に専念できる時間をできるだけ増やして医療レベルを上げつつ、多くの患者さんに対応できるような仕掛けを継続して考えていきたいと思っています。そんな夢みtainなことできるのか、という声は聞こえてきそうで、確かに簡単なことではないと思いますが、大学や各医療機関のご支援も頂きながら、また先駆的病院も参考にしつつ、少しずつ変わって行かなくては、地域で信頼される熊本労災病院であり続けることはできないと思っています。

寒くなってきました。インフルエンザはもちろん、肺炎も増える時期です。結核にも対応できる2床の個室改修がようやく完成し、間もなく供用が開始されます。わずかながら、当院としても、閉院された八代市立病院の機能をこの役割で受け継ぐこととなります。種々の感染症にも対応できる病室として汎用性もあります。とにかく、熊本労災病院は、できる限りの急性期医療を提供することでお役に立とうと思っていますので、これからもご期待のうえ、いろいろなご注文もお寄せください。

皆様良いお年をお迎えください。